

犯人に告ぐ

栗井脩介 双葉社 2004年刊

《あらすじ》

連続児童殺人事件。姿が見えぬ犯人に、警察はテレビ局と手を組み対峙する。史上初の劇場型捜査の結末は一。

【舞台】

宮前警察署が舞台、麻生区王禅寺、宮前区犬蔵、神木本町、多摩区南生田が事件現場。川崎区東田町の地名も出てくる。
(P94から全編、P141)

永遠の仔（上・下巻）

天童荒太 幻冬舎 1999年刊

《あらすじ》

霧の霊峰で一人の少女・久坂優希と二人の少年が起こした聖なる事件。その秘密を抱えたまま別れた三人が、17年後再会した。過去を探ろうとする弟の動きと殺人事件の捜査によって彼らの平穏な日々は終わりを告げる。

【舞台】

成人後の主要人物3人の勤務地が幸区。1人の居住地が武蔵小杉駅近辺。川崎駅東口ホテルや、武蔵小杉駅前総合病院、府中街道も登場。
(上)P27,92, 93,134, 149(下)60, 83ほか)

キャラクターズ

東浩紀・桜坂洋 新潮社 2008年刊

《あらすじ》

実在の批評家・東浩紀をキャラクター化した小説。キャラクターの東が記したという設定で、虚構的な文芸書評を展開し、「批評」のキャラクター小説化を実現。

【舞台】

ラゾーナ川崎を舞台に物語が展開する。ラゾーナまでの道中で多摩川大橋や御幸公園も登場。
(P16から全編)

半島を出よ（上・下巻）

村上龍 幻冬舎 2005年刊

《あらすじ》

2011年財政が破綻し世界から孤立化していた日本。北朝鮮のコマンドがプロ野球中の福岡ドームを占拠、続いて特殊部隊が襲来、朝鮮反乱軍を名乗り福岡を日本から独立させると言う。無策の政府、それに対し暗い過去を持つ少年達が反乱軍を打倒すべく動き出す。

【舞台】

物語は東名高速川崎インター付近の緑地公園から始まる。
(上巻P16)

神はサイコロを振らない

大石英司 中央公論新社 2004年刊

《あらすじ》

行方不明だった旅客機が10年の歳月を超え忽然と現れた。再会する者たちの喜びと惑い、10年という歳月は家族に大きな変化をもたらしていた。限られた再会の時間の中で彼らはどのように生き何を求めるのか。

【舞台】

乗客の一人5歳の黒木亮の父親は行方不明となっていた。川崎市役所に勤める二人の職員がホームレスとなっていたこの子の父親を探しだす。(P97、102他)

欲望

小池真理子 新潮社 1997年刊

《あらすじ》

三島由紀夫邸を寸分たがわず模倣した奇妙な館の落成パーティが四人の運命を手繰り寄せた。交通事故で性の喜びを閉ざされた美青年と館で再会した三人の男女のそれぞれの性、それぞれの愛、そして死の翳り。

【舞台】

川崎市多摩区のはずれ、宮前区との境に建てた家が舞台。生田緑地、鷺沼、宮前平、川崎インターチェンジなどが出てくる。(P118)